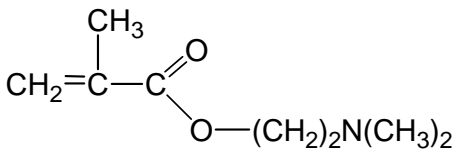


## 化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 55	官報公示 整理番号	2 - 1047(化審法) 1 - 318(化学物質管理促進法)	CAS 番号	2867 - 47 - 2
名 称	メタクリル酸 2-(ジメチルアミノ)エチル 別名：2-ジメチルアミノエチルメタクリレート、2-(ジメチルアミノ)エチルメタクリレート	構 造 式			
分子式	C <sub>8</sub> H <sub>15</sub> NO <sub>2</sub>	分子 量	157.21		
<p>市場で流通している商品(代表例)<sup>1)</sup></p> <p>純 度 : 99%以上</p> <p>不純物 : メタクリル酸エチル</p> <p>添加剤または安定剤：ヒドロキノンモノメチルエーテル</p>					
<p>物理・化学的性状データ</p> <p>外 観：無色液体<sup>2)</sup></p> <p>融 点：-30<sup>2)</sup></p> <p>沸 点：182~190<sup>2)</sup></p> <p>引 火 点：65 (c.c.)<sup>3)</sup>、74 (o.c.)<sup>2)</sup></p> <p>発 火 点：文献なし</p> <p>爆発限界：文献なし</p> <p>比 重：d<sup>25</sup> 0.933<sup>2)</sup></p> <p>蒸気密度：5.42(空気 = 1)</p> <p>蒸 気 圧：250 Pa(1.9 mmHg)(20<sup>2)</sup>)</p> <p>分配係数：log Pow ; 0.97(計算値)<sup>4)</sup></p> <p>加水分解性：水中で加水分解を受け、メタクリル酸及び 2-(ジメチルアミノ)エタノールを生じる</p> <p>解離定数：pK<sub>b</sub> = 5.6<sup>2)</sup></p> <p>スペクトル：主要マススペクトルフラグメント m/z 58(基準ピーク, 1.0)、71(0.13)、42(0.12)<sup>5)</sup></p> <p>吸脱着性：文献なし</p> <p>粒度分布：該当せず</p> <p>溶 解 性：水に可溶<sup>2)</sup></p> <p>換算係数：1 ppm = 6.54 mg/m<sup>3</sup> (気体, 20<sup>2)</sup>) 1 mg/m<sup>3</sup> = 0.153 ppm</p>					

## 総合評価

### 1) 危険有害性の要約

本物質のヒトでの急性あるいは慢性暴露時の有害性に関する報告はない。

実験動物においては眼及び皮膚に対して腐食性、消化管粘膜に対して刺激性を有するが、感作性はみられていない。吸入による急性毒性は非常に強く、経口反復投与によって中枢神経系に対する影響及び貧血所見がみられている。変異原性・遺伝毒性については *in vitro* の試験で、遺伝子突然変異及び染色体異常を誘発するとの報告があるが、*in vivo* の小核試験では陰性である。発がん性についての報告はない。生殖・発生毒性試験では、母動物に影響のある用量で出生時体重の低値、母動物の哺育機能障害とそれに起因する新生児の死亡が報告されている。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されやすい。環境省のモニタリングでは検出されたことがない。水圏環境生物に対する急性毒性は甲殻類及び魚類に対しては弱い。

### 2) 指摘事項

- (1) 実験動物において、眼、皮膚に対し腐食性、消化管粘膜に対して刺激性がみられ、吸入による急性毒性は非常に強く、反復投与毒性では、中枢神経系に対する影響及び貧血所見が報告されている。
- (2) 実験動物で生殖・発生毒性として、母動物の哺育機能、新生児の発育に対する影響がみられている。
- (3) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(2001).
- 3) 13901 の化学商品, 化学工業日報社(2001).
- 4) KowWin, Syracuse Research Corporation.
- 5) NIST Library of 54K Compounds.